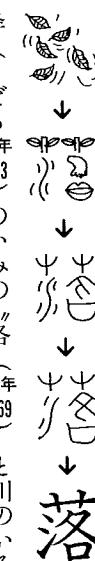


# 落

三年 筆順 ナナシ 萨茨落  
画数 12  
ワン ラクシ おIIちるIIとす

成り立ち



降（くだる年 883）のいみの「各（年 469）」と川のいみの字です。今は、葉にかぎらず、「おちる」、または「おとす」と、葉のいみの「」とを、組み合わせて作った字です。「葉が川に『落ち』てながれる」ことをあらわしたのです。

「葉が川に『落ち』てながれる」ことをあらわしたことです。今は、葉にかぎらず、「おちる」、または「おとす」というみをあらわすにつかいます。例落雷、落日、落涙、落命。

また、「おちぶれる」というみにもつかわれます。例没落。

「夕は下向きの足の形をあらわし、「下降」の意味をもつ部分である。また、各と降とはもと同音（コウ）の字である。」

# 流

三年 筆順 画数 10  
オノ リュウ・ル  
クン ながIIれるIIす

成り立ち



「子どもが頭を下にむけて水といつしょに母親のおなかの中から生まれ出る」ことをあらわした「流」と「」とを組み合わせて作った字で、「水が『ながれ』出る」というみをあらわしたものです。

「ながれる」こと。また、「ながす」こと。

「あてもなく『さまよい歩く』」というみにつかわれます。例流浪。

「遠くの土地においやる」というみにもつかわれます。例流罪。

「世の中に広くつたわる」というみにもつかわれます。例流布。

また、「流派（流れの系統）」といいうみにもつかわれます。

三年

使い方

▽「さるもの木から落ちる」ということわざがあります。

さるは木のぼりが上手ですが、その上手なはずの木のぼりにしつばいして、木から落ちることがあるという

のです。これは、なにかが上手な人が、そのことでしつばいした時につかわれることわざです。

▽おつかいに行つて、お金を落としてしまいました。落としたことに気がついて、すぐに引きかえして、さがしましたが、とうとう見つかりませんでした。

▽おつかいに行つて、お金落としてしまいました。落としたことに気がついて、すぐに引きかえして、さがしましたが、とうとう見つかりませんでした。

▽落雷（雷が落ちること。「近くに落雷があつて、三百戸あまりがていて電した」などというふうに、つかいます。）

▽落日（日が落ちること。また落ちて行く太陽のこと。）

▽落涙（涙を落とすこと。また、落ちた涙のこと。「思わず落涙した」などというふうに、つかいます。）

▽落命（命を落とすこと。しぬこと。）

▽没落（さかえていたものが、おちぶれること。「あの人は、没落した名家の出だ」などというふうに、つかいます。）

使い方

▽川の流れにしたがつて、山を下つて行くと、やがて、人家が見えて来ました。

▽洪水は、たくさんの人家を押し流しました。

熟語例

▽流浪（さまよい歩くこと。「ジプシーは流浪の民です。いく人の群れをつくつて、さまよい歩くのです」などというふうに、つかいます。）

▽流罪（遠くの土地へ、おいやる刑罰。「島流し」といつて、小さな島へ、おいやることが多いのです。）

▽流布（世の中に広く知れわたること。「世間に流布したうわさは、本当だろうか」などというふうに、つかいます。）

▽流派（流れの系統）。一つのことが、色々なやり方によつて分かれた、そのやり方。「お茶の流派は大きく分けると、表千家と裏千家に分かれる」などというふうにつかいります。）

▽激流（激しい流れ。「船は、あつという間に激流にのみこまれてしまった」などというふうに、つかいます。）

四三七

四三六